

第3章 主要指標の見通し

3-1 人口

1 総人口

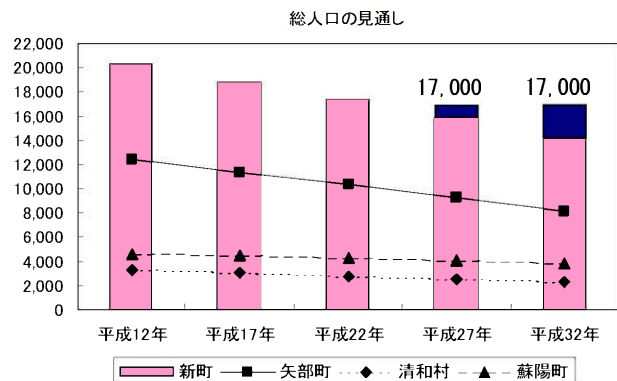
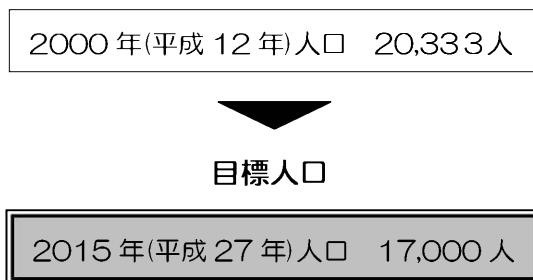
新町を構成する3町村の人口は、前述の通り一定の減少傾向を辿ってきました。

新町の将来人口は、今後もこの傾向が継続すると想定して、国立社会保障・人口問題研究における将来人口推計システムに基づき推計した結果、本計画の目標年次となる2015年（平成27年）には、15,840人になるものと考えられます。

しかし、合併に伴う各種施策の展開により、政策目標要因（努力目標）を加え、2015年（平成27年）目標を平成22年水準の17,000人と設定しました。

●新町将来人口の推計

	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成32年
矢部町	12,386人	11,348人	10,288人	9,203人	8,097人
清和村	3,279人	3,032人	2,782人	2,544人	2,304人
蘇陽町	4,668人	4,480人	4,300人	4,093人	3,829人
新町	20,333人	18,860人	17,370人	15,840人	14,230人



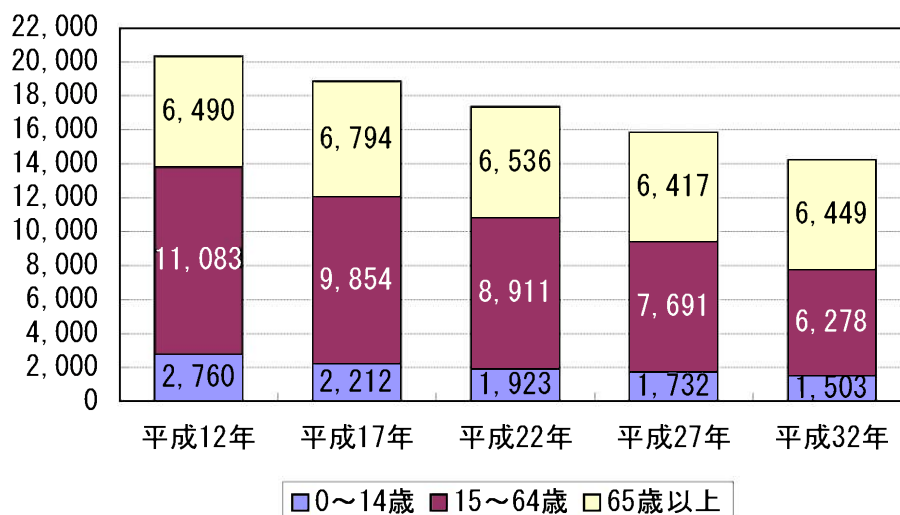
2 年齢別人口

年齢別人口の将来推計では、少子・高齢化が進み、2015年（平成27年）には高齢者率が40%を超える結果となっており、それに反比例して年少者数は年々減少していき同年には総人口の11%に満たない状況となります。

●新町の年齢別人口の推計

	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成32年
0～14歳	2,760	2,212	1,923	1,732	1,503
15～64歳	11,083	9,854	8,911	7,691	6,278
65歳以上	6,490	6,794	6,536	6,417	6,449
高齢者率	31.9%	36.0%	37.6%	40.5%	45.3%
年少者率	13.6%	11.7%	11.1%	10.9%	10.6%
総人口	20,333	18,860	17,370	15,840	14,230

年齢別人口

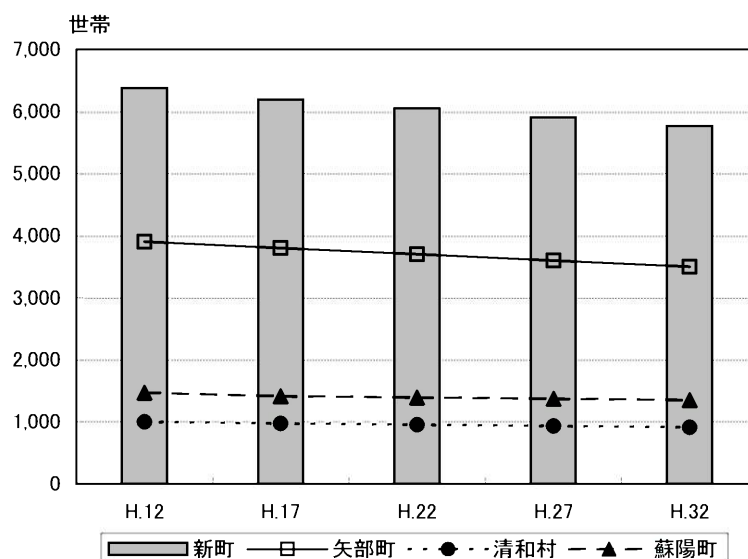


3-2 世帯数

世帯数については、トレンド推計による将来予測を行った結果、2015年（平成27年）には5,912世帯となり、2000年（平成12年）と比較して472世帯の減と予想されます。核家族化と単身世帯の増加によって世帯当り人員が少なくなっているため、人口ほどの減少ではないものの、世帯数も確実に減少するものと想定されます。

●新町の世帯数の推計

	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成32年
矢部町	3,910	3,806	3,705	3,604	3,503
清和村	1,003	977	955	934	912
蘇陽町	1,471	1,414	1,394	1,374	1,354
新町	6,384	6,197	6,054	5,912	5,769



第4章 新町建設の基本方針

4-1 新町の将来像

3町村は、阿蘇南外輪山から九州山地の脊梁までの圏域に広がり、地形的な変化に富み、豊かな自然に育まれた地域です。また、これまで同じ歴史を辿り、同じ地勢の中で、周辺農村と共に協働の精神を尊ぶ心豊かな地域社会を築いてきました。こうした生活環境は、地域内の豊かな自然や人との関わり合いのなかで生まれ、地域特有の文化や人々の心のふるさととして癒しの空間を形成しています。

一方、世の中は、「物の豊かさ」から「心の豊かさ」へ、「開発」から「保全」へ、「成長」から「持続可能社会」へと移行しています。このことは、人間は自然の中で生かされているということを認識し、自然を敬い、感謝することに私たちを気づかせてくれました。これからの時代は、物質で心が満たされた環境は次第になくなり、「心の幸せ」を追求する人生観や価値観が主流となってくると考えられます。

新しい町には、支え合いや創意と団結を象徴とする「通潤橋」、地域の人情や和を大切にする「文楽」、自然を敬い、神に感謝する「神楽」などに象徴されるように、農村社会の中で「自然に感謝し、お互いが支え合いひとり一人を大切にする」という特有の精神文化があります。私たちは、この特性を新しいまちの活力として捉え、田舎で暮らすことの価値観を共有し、人間としての本来の在り方を見失わない力強い地域社会を築き上げなければならないと考えます。

これからは、自然に対する高い倫理観を持ちつつ、環境に負荷のかからない再生産可能な産業の在り方を全力あげて創り出す必要があります。そしてそのことが、新しい町が目指す、素晴らしい自然と循環型の産業が一体となった「自然と共生する美しいまち」を形成することになり、加えて現代社会が渴望している子育ての環境が整い、優れた人材が育ち心豊かに暮らせる新しいまちが生まれます。その結果、地域の最も重要な課題である、過疎化の進行に歯止めがかかり、地域の再生に道が開かれることとなります。

これらの考えから、3町村の持つ素晴らしい要素を盛り込んだ新しいまちの将来像を以下のように設定します。

《新町の将来像》

～潤い、文楽、そよ風でつづる新しいまち～

4-2 基本理念と基本方針

3町村は農林業を基幹産業として栄え、地域の自然や環境を活かした取組みで、人と自然がおりなす個性的な地域づくりが行われてきました。ある面では、人々の心のふる里として癒しの空間を提供し、田舎のすばらしさを伝承してきたといえます。

こうした共通点の多い3町村が力を合わせ「自ら考え行動する」という住民自治の精神と「お互いが支え合い人に優しい生きがいのあるまちづくり」を行うことによって、九州の“どまん中”にある誇れる田舎づくりが可能となります。そして、そこには自然と産業が一体となった「自然と共生する美しいまち」があり、地域の文化や伝統を支える人材が育っていきます。

河川の上流域に住むものとして、命の源といえる「水」「土」「緑」を守り育て、未来の子どもたちへ残していくことは、50年後、100年後の将来を見据えた私たちの役目でもあります。この九州の鼓動が聞こえる自然豊かな大地から「風」を興し、「いのちの理想郷」という郷（くに）づくりを目指していきましょう。

新町の将来像を実現するため5つの柱（風）を掲げ、その柱（風）に基づく基本方針を設定し、具体的な重点施策を検討します。また、これらを実践する「新町建設の根幹となる主要施策」を積極的に取り組むことで、産業基盤や生活基盤が整えられ、就業者の所得向上並びに若者の定住が進み、更にはUJIターン者による定住の増加が期待できます。その結果、『過疎からの脱却・地域の再生』という地域の抱える最も重要な課題の解決に結びつくものと考えます。

《基本理念》

《基本方針》

- | | | |
|----------------|-----------|--------------------|
| 【自ら考え行動する自立の風】 | ・ ・ ・ ・ ・ | 住民自治・住民参画社会のまちづくり |
| 【むらの自慢を運ぶ風】 | ・ ・ ・ ・ ・ | 自然と産業が一体となったまちづくり |
| 【自然と環境にやさしい風】 | ・ ・ ・ ・ ・ | 自然と共生する美しいまちづくり |
| 【生涯現役百彩（百歳）の風】 | ・ ・ ・ ・ ・ | 人にやさしい生きがいのあるまちづくり |
| 【過去と未来をつなぐ風】 | ・ ・ ・ ・ ・ | 人と文化と伝統をはぐくむまちづくり |



潤い、文楽、そよ風でつづる新しいまち

①

自ら考え行動する自立の風

《基本方針》 **住民自治・住民参画社会のまちづくり**

各町村が培ってきた地域自治を受け継ぎ、住民自らまちづくりに参加し主体性を持って取り組むまちづくりを推進します。

②

むらの自慢を運ぶ風

《基本方針》 **自然と産業が一体となったまちづくり**

自然環境を活かした農林業の推進と商工業の振興を図り広域的な交流を促進します。

③

自然と環境にやさしい風

《基本方針》 **自然と共生する美しいまちづくり**

豊かな自然を守り育て、環境に配慮した循環型社会の実現と快適な生活環境を実現します。

④

生涯現役百彩（百歳）の風

《基本方針》 **人にやさしい生きがいのあるまちづくり**

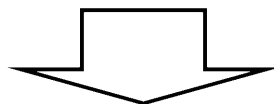
健康づくりの町をめざし、お互いが支えあういきいきとしたまちづくりを推進します。

⑤

過去と未来をつなぐ風

《基本方針》 **人と文化と伝統をはぐくむまちづくり**

地域の伝統・文化を継承し、未来へつなぐ人づくりを推進します。



「過疎からの脱却・地域の再生」

4-3 土地利用構想

熊本と宮崎、或いは阿蘇地域との広域的な連携軸や3町村内を結ぶ連携軸を基本として、3町村それぞれの持つ特性を活かし、魅力をより高めながら、地域の均衡ある発展と交流人口の増加を目指します。

○拠点、軸

<拠点>

- ・行政サービス拠点—新町庁舎、矢部町役場、清和村役場、蘇陽町役場
- ・歴史文化・交流拠点—通潤橋周辺地区、清和文楽館周辺地区、馬見原地区
- ・観光・交流・レクリエーション拠点—道の駅通潤橋、そよ風パーク地区
—清和高原天文台周辺地区
- ・自然・レクリエーション拠点—鮎の瀬大橋・猿ヶ城キャンプ村、青葉の瀬交流促進施設
—緑仙峡キャンプ場・清流館地区、井無田高原キャンプ場
—蘇陽峡・服掛松キャンプ場

<軸>

- ・広域産業・交流軸—九州横断自動車道延岡線、国道218号
- ・広域観光軸—阿蘇、高千穂を結ぶ国道265号、国道218号
- ・他市町村を結ぶ連携軸—国道445号、国道218号、国道265号
- ・河川環境軸—緑川、大矢川、笹原川、五ヶ瀬川

1 土地利用ゾーニング

新町を次の4つのゾーンに分けて、それぞれ計画的な施策の展開を図ります。

また、各ゾーンが持つ特色を発揮しながら、機能的な役割分担と連携を図り、新町の一体的な発展につなげていきます。

<自然環境保全ゾーン>

- ・九州中央山地国定公園の区域であり、樹林地・生態系や優れた景観などの現況風致の維持保全を図りながら、それらを活かした自然環境学習や都市住民との交流を進めます。

<自然環境・集落環境調和ゾーン>

- ・新町の南北に広がる森林資源や周辺の間々と一体となって美しい景観をなしている河川環境の保全を図ります。
- ・林業の振興を進めつつ、地域内外の人々の保健、休養、レクリエーションの場として活用を図ります。
- ・集落は定住化の促進を図り、自然環境と集落環境の調和を図ります。

<農業振興・農村集落調和ゾーン>

- ・農業基盤整備や農道整備など基礎的条件整備を進めるとともに、加工品や特産品づくりなど高付加価値化を図った農業の振興を図り、活力ある農業・農村集落の形成を図ります。

<市街地ゾーン>

- ・矢部町、清和村、蘇陽町の市街地や集落のまとまりのある区域は、商業や公共施設をはじめとした生活利便施設の集積があることから、地域内外の交流人口を促進する道路等の基盤整備や商業振興を図ります。

2 地域構造

(1) 地域別整備の方針

<矢部地域>

矢部地域は、3つの地域の中で人口、産業の集積が最も高い地域であることから、新町発展の牽引車的な役割を担うべき地域であり、豊かな自然環境や通潤橋をはじめとした石橋文化などの多彩な歴史的文化的文化資源を活かしつつ、「九州横断自動車道延岡線」矢部インター等の広域幹線ネットワークを活用した農林業、工業等の産業振興と中心市街地の再生や道路等の都市基盤の整備を進め、暮らしやすい生活環境づくりを行います。

<清和地域>

清和文楽の伝統文化の継承を図るとともに、文楽や清和高原天文台などの文化資源や緑仙峡をはじめとする恵まれた自然資源を活かした交流の促進と清和固有の地場産品の活用による地域振興を図り、「大いなる田舎」に住み続けられる定住環境づくりを行います。

<蘇陽地域>

阿蘇地域と高千穂を結ぶ広域観光ルートの軸上にあることから、蘇陽峡やそよ風パークなどの観光資源に加え、馬見原地区の旧宿場町のイメージによる町並みの整備を行うとともに、埋もれた観光資源の発掘やネットワーク化、農林業との連携など、観光振興を軸とした地域振興と、豊かな自然環境に囲まれた生活環境づくりを行います。

■地域将来構想図

